

1 題材名 点や曲線でつないでイラストを描こう（点つなぎ、曲線つなぎ）

2 題材の個別目標

- ・点つなぎ、曲線つなぎを通して課題を達成する喜びを感じ、10 分間集中して課題に取り組むことができる。【心(1)、環(2)】

3 指導計画

月	時間	学習内容・活動	評価
4 5 6 7 本 時 6 月 回	【常に取り組む活動】 ①（5分） 【時間における指導】 ②（10分）	①学習の準備 ・学習用具を机の上に乘せる ・半分に切ったテニスボールをセットして椅子に座る。 ②学習プリントの提示されたイラストと同じように点や曲線を結び、同じイラストを描く。	・担任からの促しありで、筆記具やプリント等を机上に用意し、学習姿勢の確認を担任にお願いすることができる。 ・本時の学習に必要な物を聞いて机上に用意し、学習姿勢が整ったことを報告することができる。 ・集中して 10 分間学習に取り組み、正しく点や線で結び、イラストを完成させることができる。（プリント）

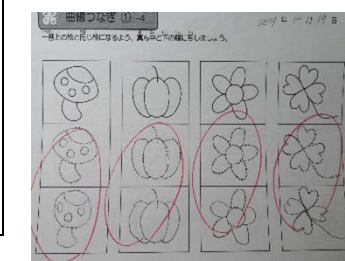
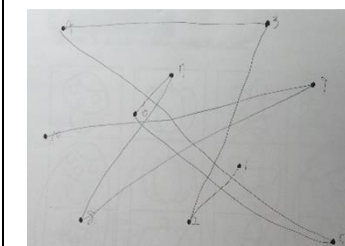
4 本時の個別目標

- ・提示されたイラストと同じように点や曲線を結び、同じイラストを描くことができる。【心(1)、環(2)】

5 準備物・資料

- ・学習プリント、半分に切ったテニスボール、タイムタイマー

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
【常に取り組む活動】 ・両足の裏に半分に切ったテニスボールを置いて椅子に座る。 【時間における指導】 1 学習プリントの提示されたイラストと同じように点や曲線を結び、同じイラストを描く。 2 10分経過又は3～4枚終了したら、教科の学習を行う。	・両足の裏に半分に切ったテニスボールを置いて椅子に座ることで、姿勢を保持し、集中して学習に取り組むことができるようにする。 【時間における指導】 ・初めは簡単なイラストの点つなぎから多くの点をつなぐ複雑なイラストへと発展する学習プリントを活用することで、生徒の達成感を徐々に高めることができるようにする。 ・複雑なイラストの点つなぎの終了後は、曲線つなぎへと発展させ、集中して取り組む時間が徐々に長くなるようにする。 ・間違いがあるときには、「もう一度確認してみよう。」など、肯定的な言葉かけで気づきを促す。 ・学習プリントが1枚終了したら丸を付け、賞賛することで学習意欲を継続する。 ・取り組んだプリントをファイリングすることで、積み重ねが実感できるようにする。 ・カレンダーに取り組めた枚数または時間を記入することで、視覚的に自分の頑張りが見えるようにする。 ◎集中して学習に取り組む、正しく点や線で結び、イラストを完成させている。（プリント）



1 題材名 漢字の読みと意味を当てよう（言葉のマッチング）

2 題材の個別目標

- ・言葉のマッチングを通して、熟語の漢字と読み方、意味を正しく理解することができる。【心(1)、環(2)】

3 指導計画

月	時間	学習内容・活動	評価
4 5 6 7 本 時 6 月 回	【常に取り組む活動】 ①（5分） 【時間における指導】 ②（10分）	①学習の準備 ・学習用具を机に乗せる ・半分に切ったテニスボールをセットして椅子に座る。 ②言葉のマッチングシートに、熟語の漢字と読み方、意味を書く。	・担任からの促しありで、筆記具やプリント等を机上に用意し、学習姿勢の確認を担任にお願いすることができる。 ・本時の学習に必要な物を聞いて机上に用意し、学習姿勢が整ったことを報告することができる。 ・10分間課題「語の漢字と読み方、意味を正しく線で結ぶ」で全問、間違わずに線でつなぐことができる。

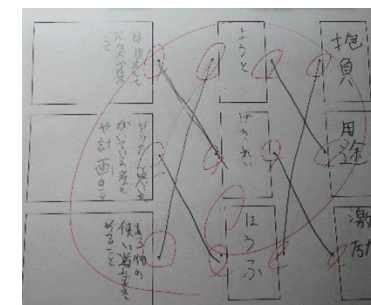
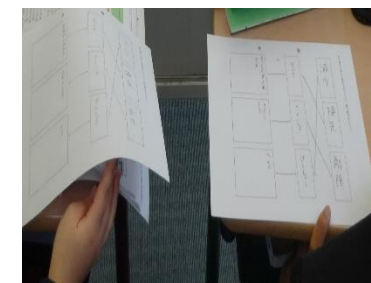
4 本時の個別目標

- ・熟語の漢字と読み方、意味を言葉のマッチングシートに書いて、正しく線で結ぶことができる。【心(1)、環(2)】

5 準備物・資料

- ・言葉のマッチングシート、漢字のワーク

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
【常に取り組む活動】 ・両足の裏に半分に切ったテニスボールを置いて椅子に座る。 【時間における指導】 1 言葉のマッチングシートに、熟語の漢字と読み方、意味を書く。 2 漢字と読み方、意味を正しく線で結ぶ。 3 隣の生徒と結んだ線が正しいか確認をする。	・両足の裏に半分に切ったテニスボールを置いて椅子に座ることで、姿勢を保持し、集中して学習に取り組むことができるようにする。 ・日常でよく使われる熟語を選び、意味は簡単で分かりやすい表現にすることで、生徒が意欲的に取り組むことができるようにする。 ・一緒に学習する生徒の実態に応じて、どの生徒にも取り組むことができるような熟語を選択する。 ・わからないときには、辞書で調べていいことを伝え、安心感をもって取り組めるようにする。 ・線で結ぶことで視覚的に熟語の漢字と読み方、意味を理解できるようにする。 ・生徒同士で答えを比べたり、正答について話し合ったりする活動を通して、理解が深まるようにする。 ◎熟語の漢字と読み方、意味を正しく線で結んでいる。 (プリント, 観察)



1 題材名 よい姿勢で取り組もう（ボールの活用）

2 題材の個別目標

- ・学習する時に、正しい姿勢を保持することができる。【身(1)】

3 指導計画 ※授業開始前の活動

月	時間	学習内容・活動	評価
通 年	【常に取り組む活動】 ①（5分）	①学習の準備 ・学習用具を机に乗せる ・半分に切ったテニスボールをセットして椅子に座る。	・担任からの促しありで、筆記具やプリント等を机上に用意し、学習姿勢の確認を担当にお願いすることができる。 ・本時の学習に必要な物を聞いて机上に用意し、学習姿勢が整ったことを報告することができる。
	【継続して取り組む活動】 ②（50分）	②背筋を伸ばし、足の裏を床に付けて授業を受ける ・足の裏でテニスボールを踏む。	・課題に向き合っている時間（10分～15分間）姿勢を崩さずに取り組むことができる。

4 本時の個別目標

- ・補助的手段を活用することで、正しい姿勢で椅子に座ることができる。【身(1)】

5 準備物・資料

- ・半分に切ったテニスボール1個分

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
1 学習用具を机に乗せる。 2 両足の裏に半分に切ったテニスボールを置いて椅子に座る。 ～学習に取り組む。～ 3 学習が終了したら、両足の裏に半分に切ったテニスボールを片付ける。	・授業に入る意識を高めるために、本時の学習で使用するものを準備するよう促す。 ・すぐに行動に移すことができたなら即時評価で賞賛する。 ・上手く伝わらない時は、1回の指示に対して1つの準備物に変更して準備を促す。 ・机上の準備が整ったのを確認してから、姿勢保持のテニスボールの準備を促す。 ・学習に集中して取り組むことができるために、両足の裏に半分に切ったテニスボールのセッティングを促す。 ・姿勢保持の意識を高めるために、テニスボール使用の効果について発問する。 ・できていないときには、「今日の姿勢はどうか？」などの言葉かけをすることで、自分で気が付いて直せるように促す。 ・良い姿勢の写真を掲示することで、正しい姿勢が確認できるようにする。 ・特別支援学級での椅子に座っての学習では、半分に切ったテニスボールを常に使用する。 ・途中姿勢が崩れたときには、「写真を確認しよう。」などの言葉かけをして、直すことができるようにする。 ◎正しい姿勢で着席し、学習に取り組んでいる。（観察）



自分の思いや考えを伝えることが難しいJ子（中2：知的障害特別支援学級）

実態把握

【特別支援学級担任の見取り】

- a. 自分の考えを文章で書き表すことを苦手としている。
- b. パターン化している活動であれば、その状況等についての報告は、単語調で報告することはできる。
- c. 単純な単一作業はできるが、2つ以上の作業や活動を同時にすることは苦手である。

【交流学級担任からの情報】

- d. 自分の思いや考えを発表したり、相手に伝えたりすることを苦手としており、その状況になると固まってしまうことが多い。
- e. 友だちと自ら関わろうとはしないが、特定の友だちから話しかけられると応答はできる。

【保護者からの情報】

- f. 自分の世界観（こだわり）がある。

【教科担当からの情報】

- g. 交流学級での授業では、板書を視写する作業で精一杯となってしまう。
- h. 教員の指示を理解することができずに行動が遅れてしまうことがある。
- i. 話し合い活動や意見交換の場面を非常に苦手としており固まって静止状態となるが、周りの様子をうかがっている様子が時々見られる。

【WISC-III所見より】

- j. 言語理解、注意記憶、処理速度が低い。表現力・実行力は弱い。
- k. 視覚的な処理、絵や図の理解や操作は得意である。
- l. 生活経験から自己選択、自己決定力が弱い。
- m. 目で見ただけの情報である完成図をイメージとして頭の中で構成することや時系列で並べ替えること等の思考が苦手である。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	d,e,f,l	d,e,i	c,f,g,l,m	c,g,i	a,b,d,e,h,,i

【卒業後の姿】

- ・交流学級において、自分の思いや考えを頷きや単語での会話など、自分が伝えられる方法で友達と意見交換することができる。

指導すべき課題

みんなと一緒に活動することや関わって活動することが苦手であり、プリント学習での活動を促されたり、発表や発言を促されたりした際には固まってしまって動作が静止してしまう。周りの様子を気にしているしぐさがみられることから、語句の意味や指示の理解、見聞きしたことを思考し相手に伝えることを中心課題と考えた。そのために、関心の高い学習課題の設定や意図的に相手に関わる場面の設定が重要であると考えた。

長期目標

自ら交流学級で交流学級担任に1日に1回は自分の思いや考えを伝えたり、学習内容について仲のよい友達と意見を交換したりすることができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ	心理的な安定	人間関係の形成	コミュニケーション
	(2)状況の課題と変化への対応 苦手な活動や場面でも固まらず安定した気持ちでいる (3)困難を改善・克服する意欲 苦手な活動や場面でも固まらず活動に参加しようとする意欲	(1)他者とのかかわりの基礎 友だちからの働きかけを受け止め応答する (3)自己の理解と行動の調整 苦手な話し合い活動に参加する	(2)言語の受容と表出 自分の意見を表出する (3)言語の形成と活用 友だちと身振りや言葉でコミュニケーションを図る
指導内容	相手と関わる意欲を高めるために、友達に「伝えられた、伝わった」等の実感や達成感を味わえる段階的な協同学習を行う。	記憶する、イメージする、比べる、選択する、表現する学習活動を取り入れる。	他者の受け入れを促すために、意見交換する場面を意図的に設け、自分の思いや考えと異なる意見を比べる学習活動を取り入れる。

短期目標 (自立活動)	・特別支援学級担任に報告表や係活動の分担を意識して報告をすることができる。 【心(2)(3), 人(1)】	・自分の考えを説明したり, 違いに気付いて伝えたりすることができる。 【心(2), コ(2)(3)】	・特別支援学級で, 1日に3回は学習内容について友達と考えや意見を比べ合ったり, 話し合ったりすることができる。 【人(3), コ(2)(3)】	短期目標 (各教科等)	・抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して文章を読むことができる。 (国語)
指導の手立て (自立活動)	・授業開始時にJ子の関心が高い作業学習で栽培したミニトマトの数や, 特別支援学級の配付物を職員室まで取りに行きその状況について担任に報告することができる。 ・自分の思いや考えを文章で表現することができるために, 参加した学校行事や経験したことの状況を想起しやすいように写真や活動表等を提示する。	・ペア学習の場で, 友達の解き方と自分の解き方の違い探しを行う。	・伝えることの自信を高めるために, 友達の分からない問題の解き方を教える活動を取り入れる。 ・正しい解き方, 又は解きやすいかを比べ, 最終的にどちらにするか担任に報告することができる。	指導の手立て (各教科等)	・抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句について理解することができるように, 文章に合わせてイラストを示す。 ・熟語の漢字と読み方, 意味の正しい理解につなげるために, 言葉のマッチングシートやマッチングカードを活用する。 ・文章表記しやすいプリントを活用する。
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)				指導の実践
評価	<通常の学級での様子> ・課題に取り組み, 授業の振り返りカードや学校行事のプリントにも自分の思いや考えを, 自分だけで書くことができた。 ・家庭科の授業においては, 決められた内容であれば発表できた。 ・決められた内容であれば, その項目を見たりプリントに書いた文章を読んだりして, みんなの前で発表することができた。 <自立活動の様子> ・ミニトマトの数の報告では, 自ら意欲的に数えられるようになった。配付係として活動することで, 特別支援学級担任との言葉のやり取りが増えた。 ・言葉のマッチングは, J子にとって理解しやすい学習方法であり, J子が言葉を正しく理解することが増えた。 ・参加した学校行事についてJ子が思いや考えを表出することが増え, またその表現する言葉の種類も増えた。				
次計画へ反映	交流学級の学習において, 仲のよい友達と意見を交換することができる。				

1 題材名 「伝えようよ 自分の気持ち1」(作業学習に関連付けた係活動の報告)

2 題材の個別目標

- ・特定の事柄について特別支援学級担任に伝えることができる。【心(1)(3)、人(3)、コ(2)(3)】

3 指導計画(帯で実施)

月	時間数	学習内容・活動	評価
4 5 6 7 (構)	【休み時間の活動】 5分	①栽培している作物の個数や状況を観察して、支援学級担任に報告する。	・担任からの促しありで、プランターを見に行き、ミニトマトの個数を報告することができる。 ・担任の促しがなくても自ら数えに行き、作物の個数を報告することができる。 ・担任からの促しがなくても数えに行き、作物がどんな状況か報告することができる。
	【時間における指導】 10分	②配付物を職員室まで取りに行き、配布物を預かり特別支援学級担任に報告する。 ・職員室にきた用事を職員に伝え、配付物を預かる。 ・職員室にきた用事を職員に伝え、伝言と配付物を預かり、そのことを報告する。	・職員室の職員に用を伝え、配付物を預かり持ち帰ってすることができる。 ・職員室の職員に用を伝え、配付物を預かり支援学級担任に内容を報告することができる。 ・職員室の職員から配付物と伝言を預かり、担任に報告することができる。

4 本時の個別目標

- ・作業学習で栽培している作物の数について、報告表にならって特別支援学級担任に報告をすることができる。【心(1)、人(1)、コ(2)】
- ・係活動として職員室に配付物を取りに行き、その状況について特別支援学級担任に報告をすることができる。【心(3)、人(1)、コ(2)】

5 準備物・資料 プランター、報告表、配付物入れ

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価(◎評価)
【休み時間の活動】 ・プランターまで行き、ミニトマトの個数を数える。	・生徒の関心が高い作業学習での作物の栽培に関連した報告をすることで、生徒の言語の表出が多くなるようにする。 ・生徒が自ら行動できるように、初めのうちは教師が言葉をかけて促し、できたら賞賛する。 ・プランターの置いてあるところに教師も一緒について行き、ミニトマトの色の変化やどの大きさのミニトマトを数えるか等、生徒の疑問に思った発言や困っていること等に対応できるよう見守る。
【時間における指導】 1 報告内容を確認する。 2 職員室に配付物を取りに行く。 3 確認した内容を報告する。	・生徒が自ら行動できるように、初めのうちは教師が言葉をかけて促し、できたら賞賛する。 ・配付物を職員室に取りに行くタイミングは、特別支援学級でのその日の授業時間数や本人の気持ちを大切にしながら決めていく。 ◎報告表や係活動の分担を意識して報告をすることができている。(観察) ・報告内容を報告表に記録し、ミニトマトの数の変化や配付物を取りに行けるようになる状況を生徒自身にもフィードバックできるようにする。



1 題材名 「伝えようよ 自分の気持ち2」(学校行事に関連付けて)

2 題材の個別目標

- ・学校行事を振り返り、自分の思いや考えを文章で表現することができる。【心(1)(3)、人(2)、環(2)、コ(2)(3)】

3 指導計画

月	時間数	学習内容・活動	評価
9 10 11 12	【休み時間 の活動】 5分 【時間にお ける指導】 10分	①配付物を職員室まで取りに行き、配付物を預かり特別支援学級担任に報告する。 ②自分の思いや考えを表現することができる。 ・学校行事を振り返り、できごとや感想を表現する。 ・友達の考え方と意見の違いを発表する。	・職員室の職員から配付物と伝言を預かり、配付物の内容と伝言を担当に伝えることができる。 ・プリントの空欄に行事のできごとや感想を文字で埋めることができる。 ・行事のできごとや感想を単文で表現することができる。 ・行事のできごとや感想を担当に口頭で伝えることができる ・特定の友達とできごとや感想を伝え合うことができる。 ・プリント学習の問題で、友達と解答の違いや解き方の違いを見つけて発表することができる。 ・ペアになって問題の解き方を教え合うことができる。

4 本時の個別目標

- ・参加した学校行事について、経験や視覚的な情報を基にした担任とのやりとりを通して、自分の思いや考えを文章で表現することができる。

【心(1)(3)、人(2)、環(2)、コ(2)(3)】

5 準備物・資料 交流学級での掲示物(学校行事を振り返って)、学校行事のしおり、学校通信、学級通信

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価(◎評価)
1 学校行事を振り返る。 ・体育祭 ・文化祭 ・合同校外学習	・掲示物の項目に沿って特別支援学級担任と話したり、本人の言葉を紙に書いて視覚的に分かりやすくしたりしながら、一つの項目ずつ生徒の思いや考えを確認していく。 ・学校行事を振り返る時には、自分の思いはどうだったかを考えられるように促す。 ・思いを表す言葉には、「楽しかった」「うれしかった」「つまらなかった」「悲しかった」等があることを確認する。 ・楽しかったという思い出がない場合は、一生懸命に頑張ったことや印象に残っていること等をしおりのプログラムを見ながら絞っていけるようにする。
2 学校行事についての自分の思いや考えを文章で表現する。	・楽しかったという思い出がある合同校外学習については、「遠足、弁当、お土産」等の関連する言葉を用いて文章を作ることができるようにする。 ◎学校行事を振り返り、自分の思いや考えを文章で表現している。(作文)



集団活動や行事に参加することが難しいK男（中2：自閉症・情緒障害特別支援学級）

実態把握

【特別支援学級担任の見取り】

a. 周囲の目が気になり，集会や行事に参加することが難しい。
（中1の時の校外学習は全て不参加）

b. 別室で授業を受けているが，人が廊下や外にいと気になり，学習や作業が手につかない。

c. 気分がむらがあり，早退してしまうことや暴言などがみられるが，落ち着いて生活できるときもある。

d. 嫌いな活動は避ける。忘れ物が多く，宿題（家庭学習）を行わない。好き嫌が多い。

e. 体を動かすことが好きではない。動作やジェスチャーがぎこちない。

健康の保持

心理的な安定

人間関係の形成

環境の把握

身体の動き

コミュニケーション

a,b,c,d,f,g,j

h,i,j

d

e

j,c

【2年後の姿】

支援学級での集団活動や行事に参加することができる。

f.集中力がないため，いろいろな活動において，すぐに疲れてしまう。

g.思うように学習課題が進まず，継続して取り組むことができない。

【保護者からの情報】

h. 休日は外出したり，友達と遊んだりする。

i. ネットゲームやアニメが好き。「自分の世界」が強く，他の人たちと関わりをもつことが難しい。

j.3週間に一度，スクールカウンセラーとの面談を受けている。

指導すべき課題

様々な活動に関して見通しをもつことができれば，集会や行事に参加することができるのではないかと考える。そのために，不安なことがあったときは，適切な方法を知り，自分で対処できるようにしていきたい。

長期目標

校内外の行事への不安を軽減し，参加できる回数を増やし，進学に向けて見通しをもてるようにする。

自立活動指導内容

項目リストアップ

心理的な安定

人間関係の形成

コミュニケーション

(1)情緒の安定
ストレスの緩和

(2)状況の理解と変化への対応
変化する状況の理解
適切な行動の習得

(1)他者とのかかわりの基礎
人に対する信頼感

(2)他者の意図や感情の理解
他者からの働きかけの対応

(3)自己の理解と行動の調整
場に応じた適切な行動

(2)言語の受容と表出
適切な言葉を使って
自分の気持ちや考えを表現する。

指導内容

体ほぐし，ストレッチ運動，呼吸方法の習得等を通して，精神的なストレスを緩和する。

ソーシャルスキルトレーニングを通して周りの人に関心に向け，関わる力を身につける。

自分の考えを作文にまとめたり感想を発表したりする
自分の考えていることや気持ちを簡単な言葉で表現したり，意思表示したりする。

45

短期目標 (自立活動)	緊張や不安な気持ちを自分でコントロールすることができる。【心(1)】	校外学習を想定し、場に応じた適切な言動をとることができる。【人(1)(2)(3), コ(2)】	自分の考えや気持ちを相手に伝えることができる。【人(1), コ(2)】	短期目標 (各教科等)	校外学習の計画を立て、参加することができる。(総合的な学習)
指導の手立て (自立活動)	- 体ほぐしの運動をすることや呼吸方法を習得することで、緊張を和らげる。 - ストレッチの動きを写真で示し、同じような動作ができるようにする。 - バランスボールを使って体ほぐしの運動をする。 - 活動に入る前に深呼吸をする。	- 場面絵を使用しながら、とるべき正しい行動を考えさせる。 - 分からないことがあったときの質問の仕方、知らない人と接するときの態度などについてロールプレイを行う。	- 自分の考えを決めたり、気持ちを相手に伝えたりする場を設ける。 - 自分の好きなこと、得意なことなど話やすいことをテーマに「なんでもベスト3」を行い、相手にわかりやすく伝える。 - 週に一度、世の中の出来事で気になったニュースを発表し、その理由も説明する。	指導の手立て (各教科等)	- 興味のある項目から調べ学習に取り組むことができるようにする。 - 校外学習のイメージができるよう、その場面の写真を提示する。 - 校外学習の計画と実施。 - 歴史、文化、施設、電車やバスの時刻を調べる。 - きまり、持ち物、服装を決める。 - しおりを作成する。
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)			指導の実践	
評価	<支援学級での様子> - 在籍しているもう1名の友だちと校外学習のための計画を協力しながら立て、3回の校外学習に参加することができた。 2日間の職場体験学習にも参加することができた。 - 以前は否定的でものごとを拒否する言葉が多かったが、前向きな発言が増え、支援学級の友達に対しても励ましの言葉をかけられるようになった。 - 朝の会で週2・3回の1分間スピーチができるようになってきた。 - 各教科の授業中、家庭学習の集中時間、課題の提出等においても、右記のような成果が見られた。 <自立活動の様子> - 体ほぐしの運動 開脚の姿勢 指導前1秒 指導後10秒 仰向けで両足抱え 指導前0秒 指導後10秒 - 場面絵を見て、疑問をあまりもたず、見たままに説明していたが、どのように行動することが適切なのか、自分なりに考えて答えることができるようになった。 - ロールプレイでは、始めは抵抗感がありなかなか取り組むことができなかったが、少しずつ、役割を交代しながら気持ちを伝えることができるようになった。 「なんでもベスト3」を考え、まとめる時間が指導開始直後は50分程度かかっていたが、指導継続中の現在は20分程度で書けるようになってきている。 - ニュースの発表では、新聞から興味のある記事を選ぶことから始めた。今では進んで最近のニュースを発表できた。				
次計画へ反映	支援学級や少人数での校外学習に参加できるようになってきたので、今後は学校行事に向けてできる範囲から参加ができるようにしていきたい。				

1 題材名 こんなとき どう考える？

2 題材の個別目標

- ・相手の気持ちになって考えることができる。
- ・相手にわかるように伝えることができる。 【人(3), コ(2)】

3 指導計画（5時間扱い）

第1次「体力をつけよう」1時間

第2次「こんなとき どうする」4時間

第1時「公共のルールとは？」

第2時「公共の場での過ごし方」

第3時「わからないときの質問のしかた」

第4時「自分の気持ちを伝えよう」（本時）

4 本時の個別目標

- ・自分の考えを伝えることができる。【人(3), コ(2)】

5 準備物・資料 絵カード，ワークシート

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
1 ストレッチ運動をする。 腕・足のストレッチ	・リラックスできるよう，体の緊張をほぐすことで，気分が前向きになるようにする。 ・写真で掲示してある動きを参考に，動きをまねる。 ・開脚の姿勢から足や首を振ることで，柔軟になっていくことを体感することができる。



2 本時のめあてを確認する。

こんなときどうするか考えよう。

(1)電車の座席

- ・公共の場では、様々な場面が考えられるので、ロールプレイをしながらその時の状況を考え、適切な言動ができるようにする。

(2)荷物をふんだ

- ・電車の座席が少し広く空いている場面で、荷物を置いたり、足を大きく広げたりしている絵を掲示し、どのような座り方がよいか考える。

(3)知らない人に声をかけられた

- ・自分が人の荷物を踏んでしまったとき、相手が悪いと考えてしまうので、どのような状況でも、踏んでしまったりぶつかってしまったときは、すぐに謝ることができるようにする。(ロールプレイ)

(4)考えてみよう

- ・知らない人に道を聞かれたときは、分かる範囲で教えることができるようにする。しかし、お金を貸してほしいなど言われた場合は、断ることができるようにする。

(4)考えてみよう

- ・ほかにも駅では、通勤や通学で利用する人がたくさんいること、混雑しているときは、空いているところを見つけ移動したり、吊り輪につかまったりすること、また、緊急の場合は、アナウンスを聞いて判断することなど、考えられる様々な状況を想定し、その時の状況でふさわしい行動がとれるようにする。

◎場面の状況に合わせた行動について、自分の考えたことを表現することができる。(観察、発表)

3 本時の活動を振り返って、感想を発表する。

- ・本時で学習したことを、次時の活動への意欲となるようにする。



S S T絵カード
(エスコアール)

友達との関わりが難しいL男（中1：自閉症・情緒障害特別支援学級）

実態把握

【小学校からの引き継ぎ】

a. 小学校時代は自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍し、1日のほとんどを支援学級で過ごしていた。

【特別支援学級担任の見取り】

b. 中学校進学にあたっても自閉症・情緒障害特別支援学級在籍となったが、周囲の友達を目を気にして支援学級の利用はほとんどなかった。

c. 2学期中頃より、トラブルが頻回になり、本人から支援学級の利用をしてくるようになった。

d. 1時間落ち着いて授業に集中することができないが、興味のあることには熱心に取り組む。

【交流学級担任からの情報】

e. 思ったことをすぐ言動に移してしまうのでトラブルになりやすく、本人は苦しんでいる。

f. 周りの状況が理解できないため、些細なことでかっとなってしまう。

g. 学級での話し合いやグループ学習で相手の意見を受け入れることができない。

h. 体格がよいが、体のことを友達に言われることをとても気にしている。

i.整理整頓が苦手で、忘れものが多い。柔道部に所属しており、部活動が好きである。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	a,b,c,d,f,h	c,e,g	f,i		c,e,f,g
【3年後の姿】 自分の気持ちをコントロールし、円滑なコミュニケーションをとりながら、友達と良好な人間関係を形成することができる。					

指導すべき課題

学校生活全般のトラブルの原因が、暴言や、状況判断が難しいことにあると考える。そこで、ソーシャルスキルトレーニング等で相手の気持ちを理解する場面を学習することができれば、学校生活の場においてその状況に応じた言動をとることができ、友達との円滑なコミュニケーションが図れると考える。

長期目標

学校生活の中で場に応じた言動をとることができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ	心理的な安定	人間関係の形成	コミュニケーション
	(1)情緒の安定 自分の気持ちのコントロール (2)状況の理解と変化への対応 適切な対応や行動の習得	(2)他者の意図や感情の理解 他者の意図や感情を理解した場に応じた適切な行動 (4)集団への参加の基礎 集団に参加するための決まりの理解	(2)言語の受容と表出 自分の気持ちや考えを正しい言葉で伝えたり表現したりすること
指導内容	勝敗のあるゲームを行い、負けたときの気持ちのコントロールができるようにする。	ロールプレイ等を通して場面に応じた適切な関わりを身につける。	作文や感想文を書くことで自分の感情を整え、考え方や物事を肯定的に捉えることができるようにする。

短期目標
(自立活動)

- ・かっとなってしまったとき、怒りの気持ちを抑えることができる。【心(1)】

- ・少人数における活動において、適切な言葉づかいをすることができる。【心(1)(2)、人(3)(4)、コ(2)】

- ・肯定的な表現を使って文を書くことができる。【コ(2)】

個別目標
(各教科等)

- ・話し合い活動に参加し、自分の考えを発表することができる。(国語)
- ・資料をもとに人の気持ちを考えることができる。(道徳)

指導の手立て
(自立活動)

- ・活動中にかっとなってしまった時は怒りを6秒だけこらえられるように声をかける。
- ・自分の思ったことをすぐにストレートに言葉にしないように意識させる。
- ・ゲーム（トランプ・言葉遊び）を行い、負けたときの気持ちを、適切な態度と言葉で表現できるようにする。
- ・タッピングを行い、気持ちを落ち着かせる。

- ・場面絵や配列カードを使用し、教室での友達関係、公共の場での正しい状況判断を考える。
- ・発表の仕方、聞くときの態度（ルール）などをカードにして伝える。
- ・間違いを指摘されたときの対応の仕方を知る。
- ・学校生活や人と関わる場面で様々な状況を想定し、ロールプレイを通してその対応を考える。
- ・相手の気持ちを理解できるように、ロールプレイの役割演技を交代する。

- ・自分の好きなキャラクターの名前をつけた新聞を作ることで、出来事や自分の感想を主体的にまとめられるようにする。

指導の手立て
(各教科等)

- ・話し合いのルールをカードにし、掲示する。
- ・自分の思いが自由に表現できるよう課題を工夫する。
- ・自己肯定感を少しでも高められるよう認める場面を多く作る。
- ・資料の葛藤場面に共感したり、友達の意見を聞いたりしながらお互いに認められる場を作る。

指導の実践

(次ページ学習指導案参照)

指導の実践

評価

＜通常の学級での様子＞

- ・カッとなっても怒っている自分を理解できるようになり、興奮している時間が短くなった。
- ・自分の得意なところから伸ばそうと、各教科でできることを考え、取り組めるようになってきた。
- ・数学のテストでは、結果に対して一度カッときてもテスト直しをするようになった。
- ・暴言をはいたとき、周りがどのように感じているかを考えるようになってきた。
- ・話し合いの場面では、友達の意見や考えを最後まで聞くことができるようになってきた。
- ・これまで授業に対して否定的な態度が多かったが、自分の好きなことや得意なことに目を向けることで、様々な活動を意欲的に行うことができるようになってきた。

＜自立活動の様子＞

- ・支援学級への参加に抵抗がなくなってきた。支援学級の友達のよいところに気づき、自分も挑戦して取り組もうとすることが多くなった。
- （ゲームでの様子）少人数でのゲームでは、勝敗にこだわらずいつもルールを守って楽しく取り組むことができた。疲れたり自分が負けそうになったりしても、感情をあらわにすることはなくなった。
- （場面絵の活動における変容）場面絵では、なぜいけないのかを考えたとき、相手や周りの人がどう思うかを考えられるようになってきた。
- （ロールプレイでの様子）特別支援学級では数名の生徒がいるため、A君・B君など役割演技を交換しながら行うことができた。また、それを見ている第三者の立場でも考えることができた。実際の生活の中で同じような場面が何度もあったが、少しずつ結びついていった。
- （新聞づくりの活動の様子、成果、変化）生徒が好きなキャラクターを使うことで、とても意欲的に取り組んだ。また、それを人に伝えるということを通して、独りよがりでは相手に通じないことも学び、相手も自分と同じように好きになってくれるにはどうしたらよいかなども考えるようになっていった。また、新聞作りをきっかけに、数学や英語などもキャラクターを使って意欲的に学習ができるようになっていった。

＜その他＞

- ・家庭で落ち着かない日 平均4回／週 → 平均1回／週

次計画へ反映

自分が気付かないときに相手に嫌な思いをさせることがあるので、今後も継続していきたい。

1 題材名 こんなときどうする？

2 題材の個別目標

- ・ゲームのルールを理解し、楽しく活動することができる。
- ・生活の場面を考えて、状況に応じた行動をとることができる。【心(2), 人(3)(4), コ(2)】

3 指導計画（4時間扱い）

第1次「自己紹介をしよう」 1時間

第2次「こんなときどうする」 3時間

第1時「ゲームをしよう」

第2時「こんな友達いるかな」

第3時「お土産をもらったよ」（本時）

4 本時の個別目標

- ・相手の気持ちを推測し、不快な思いをしないよう伝えることができる。【心(2), 人(3)(4), コ(2)】

5 準備物・資料 トランプ、配列カード、ソーシャルスキルの場面絵、ワークシート

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
1 始まりのあいさつをする	・声の大きさに気を付けて、あいさつできるようにする。
2 トランプゲームを行う ・ババ抜き	・偶然性のある勝ち負けにおいて、結果がどのようなになっても感情をあらわにしないように、言葉かけをする。
3 配列カードをする。	・実際の場面を想像しながらじっくりと取り組むことができるようにし、配列順に

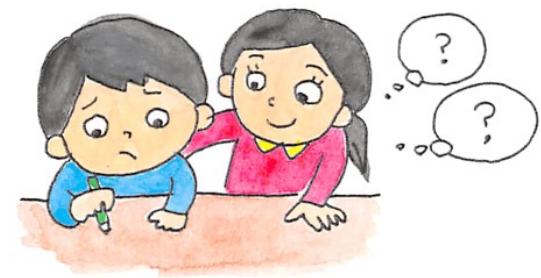
・生活場面 4 本時のめあてを確認する。 相手の気持ちを考えて 声をかけてみよう (1)特定の友達にわたす ・学級でない場所 ・人のいない所 (2)もらってないと言う ・約束していたのかな ・友達にお返しをしていた (3)「いらない」と言う ・お礼をいう ・気持ちを受けとる 5 本時の活動を振り返って、感想を発表する。	並べたカードを物語のように話ができるようにする。 ◎様々な場面を想定することで、相手がどのように感じ、また自分とは違った考えをもつことを理解できる。 ・3つの場面絵を通して、自分の考えだけでなく、友達の気持ちに気づくようにする。また、想定されている言葉をかけられたとき、どのように感じるか、また友達はどうのように感じているかを考えるようにする。 ・自分がたとえ思っている、言っているとはいけないことがあることを知り、理由も考えるようにする。 ・学級にはたくさんの友達がいることを理解し、集団における接し方を理解できるようにする。 ・自分の行動と違う部分が多くなり、発言を躊躇するときは、これからどうすればよいかを前提に、自由な雰囲気での発言ができるようにする。 ◎場面絵の状況を理解し、相手に不快な思いをさせないように伝えている。(発表) ・次回の活動にも生かせるようにする。
---	--



S S T絵カード
(エスコアール)



手立て集



困難さの内容	困難さの背景	自立活動の指導内容と手立て	文献・教材等
授業に集中して取り組むことが難しい	・ 注意の集中や持続が苦手である	〈指導内容〉 ・ 認知機能を高める段階的な学習に取り組み、学習に向き合う意欲を高める【心(3)】 ・ 安定した座位姿勢を実感することができるようにする【身(5)】 〈手立て〉 ・ 目と手の協応運動を中心とした認知機能を高めるプリント教材を用いる ・ 姿勢を保持する練習を取り入れる	・ 「感覚統合遊び」(ナツメ社) ・ 「コグトレ」(三輪書店) ・ 「聞くトレ」(学研) ・ 「ビジョントレーニング」(図書文化社) ・ タイムタイマー ・ 座位教具 ・ テニスボールを半球にしたもの(両足の裏に置く)
	・ 学習内容を理解できていない ・ 言葉を理解することや、言葉で表現すること、言葉を使って考えることが苦手である	〈指導内容〉 ・ 言葉の読みと意味を正しく理解することができるようにする【コ(3)】 〈手立て〉 ・ 漢字をパーツに分けての学習を行う ・ 言葉のマッチングシートやマッチングカードの教材を用いる ・ 会話や物語文の読解プリントを用いる	・ 「読み書きが苦手な子どもへの〈漢字〉ワーク1～3年編」(明治図書) ・ マッチングシート、マッチングカード ・ 「ことばのテーブル100枚プリントおはなし読解ワーク上級編(葛西ことばのテーブル)
一斉の指示で行動できない	・ 記憶する力が弱い ・ 選択的注意が難しい	〈指導内容〉 ・ 聞くことに集中できるようにする ・ 聞くポイントが分かるようにする【環(4)】 〈手立て〉 ・ 教材を用いて、聞くトレーニングをする ・ 作業の構造化(視覚化)を図る	・ 3ステップ「聞く」トレーニング(さくら社)
	・ 話を聞く構えが整わない ・ 姿勢保持のための筋力・意識の低さ	〈指導内容〉 ・ 体幹やボディイメージを意識できるようなトレーニングを行う【身(1)】 〈手立て〉 ・ 体幹トレーニング(足支持立ち、背筋、ワニ歩き、高ばい、体育すわり歩きなど)を継続して取り入れる	・ 体・手先の動き指導アラカルト(中央法規)

困難さの内容	困難さの背景	自立活動の指導内容と手立て	文献・教材等
自分の考えを伝えることが難しい	・言葉を理解することや言葉を使って考えることが苦手である	〈指導内容〉 ・漢字の読み、書き、意味を正しく理解できるようにする【コ(2)(3)】 〈手立て〉 ・言葉のマッチングシートやマッチングカード教材を用いる ・漢字をパーツに分けての学習を行う	・マッチングシート、カード
	・思いついた情報を、頭の中で順序立てたり整理したりすることが苦手である ・生活経験から自己選択、自己決定する力が弱い	〈指導内容〉 ・視覚情報を用いて自分の思いや考えを相手に伝えることができる【心(2)(3)】【人(1)(3)】 〈手立て〉 ・パターン化した活動において、状況報告表の記入を習慣化する ・ペア学習において、解き方の違いを探し合ったり、分からない問題の解き方を教え合ったりする活動を取り入れる ・伝える時の補助となるミニホワイトボードを活用する ・学校行事や経験したことの状況を想起するために、関連した写真や活動表を提示する ・生徒が選択できる発問をする	・報告表 ・ミニホワイトボード ・学校行事の写真や活動表
読むことが難しい	・言語性能力の弱さ（入力・連合・出力）	〈指導内容〉 ・言葉や文の意味内容を想起できるようにする【心(3)】 〈手立て〉 ・言葉や文の意味を、図やイラストを交えて確認しながら学習する	
	・読んでいる場所がわからなくなる ・視覚機能（特に跳躍性眼球運動）の弱さ	〈指導内容〉 ・跳躍性眼球運動を高めるトレーニングを行う【環(1)】 〈手立て〉 ・リーディングスリット（読む行だけ見えるようにする）を活用する ・ビジョントレーニングを取り入れる	・発達の気になる子の学習・運動が楽しくなるビジョントレーニング（ナツメ社）
	・単語や文節など、まとまりとして読めない	〈指導内容〉 ・「単語」や「文節」に注目できるようにする【コ(2)】 〈手立て〉 ・ランダムに書かれたひらがなの中から、まとまりのある言葉を探す ・文節を線で区切る分かち書きする	・遊び活用型読み書き支援プログラム（図書文化）

困難さの内容	困難さの背景	自立活動の指導内容と手立て	文献・教材等
書くことが難しい	・筆圧の調節が難しい ・斜めや曲線が書きづらい ・手先が不器用	〈指導内容〉 ・筆圧を調節し、なめらかに運筆できるようにする ・指先の力をコントロールできるようにする【身(3)(5)】 〈手立て〉 ・筆記具の精選（フェルトペン、サインペンなど） ・運筆練習プリント、視写（なぞり書き）プリントを継続して行う ・せんたくばさみ等を利用した指先のトレーニングを取り入れる ・粘土遊び、折り紙、蝶結びの練習などで指先の動きの巧緻性を高める	・プリントきっず （インターネット教材） ・体・手先の動き指導アラカルト （中央法規）
	・記憶する力が弱い ・左右がぱっと分らない ・視覚認知能力が低い	〈指導内容〉 ・漢字の形を正しく捉え、正しく書くことができるようにする【環(5)】 〈手立て〉 ・漢字パズルやジオボード等を使って、視覚認知を向上させる学習を行う	・特別支援の漢字教材 唱えて覚える漢字九九シート （学研教育みらい） ・小学全漢字おぼえるカード （学研） ・道村式漢字カード
	・視覚認知が弱く、聴覚記憶が強い	〈指導内容〉 ・聴覚認知を活用して、漢字を唱えて正しく書くことができるようにする【環(5)】 〈手立て〉 ・漢字九九シートを使って、漢字を唱えて書く練習や、自分で語呂合わせを考えて漢字を覚える学習を取り入れる	
	・姿勢保持のための筋力が弱い	〈指導内容〉 ・体幹トレーニング等で、姿勢を保持できるようにする【身(2)】 〈手立て〉 ・バランスボールを用いた体幹トレーニングを行う ・足型シートを使って、正しい位置を視覚的に示す	・体・手先の動き指導アラカルト （中央法規） ・バランスボール
	・似た字を区別できない ・鏡文字を書く ・視空間認知機能が低い	〈指導内容〉 ・視空間認知機能を高めるトレーニングを行う【環(5)】 〈手立て〉 ・タングラムを行う ・同じ物探し、形のかけら探し、間違い探しなどを取り入れる	・発達気になる子の学習・運動が楽しくなるビジョントレーニング （ナツメ社）
	・文字を想起できない ・短期記憶が弱い	〈指導内容〉 ・短期記憶力を高めるトレーニングを行う【環(2)】 〈手立て〉 ・記憶して書き出す「位置記憶」トレーニングを取り入れる	・SAKURA.H.Q教育メソッド「HQとワーキングメモリ実践」 （どりむ社）

困難さの内容	困難さの背景	自立活動の指導内容と手立て	文献・教材等
みんなの前で話すことができない	・何を話してよいかわからない ・語彙が少ない ・コミュニケーション能力が弱い	〈指導内容〉 ・何を話すべきかを整理し、自分の言葉で話をつなげられるようにする【コ(5)】 〈手立て〉 ・発表をする時は、手元に下書きメモや原稿を持って発表する ・場面を作って、役割演技をする ・ワークシート等を使って、自分のことや出来事を話すトレーニングをする	・SSTワークシート（LD発達相談センターかながわ）
	・心理的要因（恥ずかしい、緊張する）による	〈指導内容〉 ・教室や学校が安心できる場となるように工夫し、自分の気持ちをコントロールできるようにする【心(2)(3)】 〈手立て〉 ・「言葉でコピー」「図形伝達ゲーム」などの活動を取り入れる ・グループを工夫し、安心して活動に参加できるようにする ・グッドモデルを聞かせ、どのようにすればよいかを明確にする	・特別支援教育サポート辞典（合同出版） ・LD・ADHDへのソーシャルスキルトレーニング（日本文化科学社）
	・吃音（どもり）がある ・構音障害がある（正しい発音で話せない）	〈指導内容〉 ・障害についての理解を図り、よりよい対応の仕方を身に付ける ・発音のトレーニングをする【健(4)】【心(3)】 〈手立て〉 ・周囲への理解を図る	・構音障害のためのドリルブック（協同医書出版社）

困難さの内容	困難さの背景	自立活動の指導内容と手立て	文献・教材等
こだわりの強い	・興味関心に偏りがあり、行動の切り換えができない ・活動に対して不安がある	〈指導内容〉 ・こだわりを和らげるキーワードを獲得できるようにする【心(3)】 ・気持ちの切り替えや不安の軽減の仕方を身に付けられるようにする【心(1)】 〈手立て〉 ・「続きは明日やろうね」などの言葉かけを意図的に行う ・「こんなときどうする？」のソーシャルスキルトレーニングを行う ・予定や変更を予め視覚的（伝言やメモ）に伝える ・ストレッチ運動や、心身をリラックスさせる動きを取り入れる	
話を最後まで聞くことができない	・聞く力が弱い	〈指導内容〉 ・ワーキングメモリを向上する活動を行う（プリント等） ・相手の言葉や表情、身振りから話の内容をとらえられるようにする ・語彙を増やす【コ(2)(3)】 〈手立て〉 ・話すだけでなく、文字（視覚情報）でも指示をする ・指示を短く、少しずつ話す ・話の途中で内容を確認する ・言葉遊び、連想ゲーム、なぞなぞなどを意図的に取り入れる	・聞き取りワークシート（NPOフトゥーロ） ・LD・ADHDのソーシャルスキルトレーニング（日本文化科学社） ・ことば遊び絵カード（すずき出版） ・スリーヒントれんそうかるた（七田式） ・ことばのカードゲームもじびったん（メガハウス）
	・注意散漫である	〈指導内容〉 ・自分に合った集中の方法や集中できる時間を知る【心(3)】 〈手立て〉 ・座席の配慮（教師の近くなど）をする ・バランスゲームなどで集中力を高める	・パズル ・ジェンガ（タカラトミー） ・つまんでつまんでバランスゲーム ドラえもんだらけ（エポック社）

困難さの内容	困難さの背景	自立活動の指導内容と手立て	文献・教材等
整理整頓ができない	・不器用である	〈指導内容〉 ・手指の巧緻性を高める【身(3)(5)】 〈手立て〉 ・クリップをのしに留める、折り紙をするなどの手先を使った動きを練習する ・物を出す時間、しまう時間を確保する	・季節のかんたんおりがみ (小峰書店)
	・空間認知が低い	〈指導内容〉 ・形、空間の認知力を高める活動を行う【環(2)(5)】 〈手立て〉 ・型はめパズルの活動を取り入れる ・道具箱やロッカーなど、入れる場所を大きくして余裕をもたせる ・机の中の様子を図や写真に表す	・立体パズル(エド・インター) ・幾何マグネ(エド・インター)
	・順序よく処理する力が低い ・他に注意が向く ・片付けの仕方が未習得である	〈指導内容〉 ・児童生徒が自分で確認できるようにする ・視覚的な手がかりを使って行動できるようにする【環(4)】 〈手立て〉 ・整頓タイムを設ける ・自分の物に名前を書く ・教師と一緒にやり方を確認し、その後はチェックシートを使って自分で確認できるようにする ・よい手本の児童を隣の席にする	・イラストでわかる特別支援教育サポート辞典(合同出版)
体をうまく使えない	・ボディイメージがない ・筋力が弱く、姿勢を維持できない	〈指導内容〉 ・体幹を鍛える【身(2)】 〈手立て〉 ・授業の導入や、活動の切り替えなどで運動を取り入れ、継続して行うようにする	・発達が気になる子の運動あそび88(学研)

困難さの内容	困難さの背景	自立活動の指導内容と手立て	文献・教材等
衝動を抑えることができない	・ 情緒が不安定である	〈指導内容〉 ・ 人との関わりを肯定的にとらえるトレーニングを行う ・ 衝動を抑える自分なりの方法を身に付けられるようにする ・ 嫌なことや不安なことへの対処の仕方を身に付けられるようにする【環(2)(4)】【心(1)(3)】 〈手立て〉 ・ 話を聞く時間や落ち着く場所を設ける ・ いいところメッセージ、愛称バッチリゲームなどのソーシャルスキルトレーニングを行う ・ 数を数える、深呼吸をするなどの衝動を抑える方略を体験する	・ S S Tワークシート ・ S S T絵カード (エスコアール) ・ L D・A D H Dへのソーシャルスキルトレーニング (日本文化科学社)
	・ コミュニケーション能力が低い	〈指導内容〉 ・ 場を設定して役割演技をする ・ 友達と仲よく関わるためのトレーニングを行う【人(1)(2)】 〈手立て〉 ・ 教師と一緒に振り返る時間を確保する ・ 仲間づくりゲームなどのソーシャルスキルトレーニングを行う	・ S S Tワークシート ・ フレンドシップアドベンチャー (S S Tボードゲーム)
	・ 集中力がない ・ 持続力がない	〈指導内容〉 ・ 学習や活動をスモールステップにし、成就感が味わえるようにする ・ 自分の集中できる環境（場所、時間など）を知る【環(4)(5)】 〈手立て〉 ・ 本人の集中できる時間を設定して作業を行う ・ ご褒美シール、やることリストを作成する	・ S S Tワークシート ・ イラストでわかるサポート辞典 (合同出版)
自分の気持ちを言うことが難しい	・ 自己肯定感が低い ・ できないことに目を向ける傾向がある ・ 自信がない	〈指導内容〉 ・ 小集団での発表の機会を設け、称賛の場面を増やす ・ 様々な体験を通して自信をつける【人(3)】 〈手立て〉 ・ 得意なことを生かして、活躍の場面を設ける	
	・ 心理的な不安がある ・ 失敗を嫌がる ・ 吃音がある	〈指導内容〉 ・ 簡単な読み物を読む学習を行う ・ 身近なテーマについて楽しく話す学習を行う【心(3)】 〈手立て〉 ・ ゆっくり、自分のペースで読む活動を行い、自信をつける ・ 安心した雰囲気の中で、身近な内容について話す活動を意図的に設ける	

困難さの内容	困難さの背景	自立活動の指導内容と手立て	文献・教材等
暴言を吐いたり、カッとしやすかったりして、友達とトラブルを起こす	・傷つきやすく被害者意識が強い ・「どうせわかってもらえない」と自分の気持ちを説明しようとしない ・自己肯定感が低い	〈指導内容〉 ・自分について知り、気持ちを伝える練習をする【人(3)】【コ(1)】 〈手立て〉 ・自分がどういうときに怒ってしまうのか、また何をすると落ち着くのかなど教師と話し合っ紙に書く活動をする	
	・自分の気持ちがわからず、コントロールできない ・必要以上に気持ちを抑えこんで爆発してしまう	〈指導内容〉 ・客観的に自分の気持ちを考えたり、コントロールしたりする練習をする【環(4)(5)】 〈手立て〉 ・イラストを使って自分の気持ちを客観視し、「イライラしている」「破裂しそう」など自分の気持ちを伝える練習をする ・授業や1日の流れの見通しを立てる ・気持ちが高ぶったときには早めに教員に伝え、クールダウンする機会を設ける	
集団の中で指示が入りづらい	・聴覚的短期記憶の困難	〈指導内容〉 ・聞く力と記憶力の向上をねらう活動を行う【環(1)】 〈手立て〉 ・注意して言葉を聞き、聞いたことを覚えていないとできない（必然的に聞き覚えなければならない）ゲームなどを行う	・子どもの集中力を育てる聞くトレ（学研） ・3ステップ聞くトレーニング（さくら社）
	・集中が続かない ・視線や体が絶えず動いている ・刺激への過剰反応がある	〈指導内容〉 ・聞く力を育てる活動を行う【環(2)】 〈手立て〉 ・スリーヒントクイズや三択クイズなどよく聞いていないと答えられないことを問う ・ポジティブフィードバックで常に注視を促し、集中を持続させる	・教室でできる特別支援教育1分間集中トレーニング（学陽書房）

困難さの内容	困難さの背景	自立活動の指導内容と手立て	文献・教材等
指示と違うことをしている	・耳から聞いたことが頭に残らない ・言葉の指示で動けない ・聴覚認知能力が弱い	〈指導内容〉 ・聴く力を高める【身(5)】 〈手立て〉 ・命令ゲーム ・3ヒントゲーム ・とんだとんだゲーム	・子どもの集中力を育てる聞くトレ（学研） ・きくきくドリル（文英堂）
	・ワーキングメモリが弱い	〈指導内容〉 ・ワーキングメモリを高める【環(2)】 〈手立て〉 ・おつかいゲーム ・神経衰弱 ・伝言ゲーム ・言葉記憶ゲーム	・3ステップ「聞く」トレーニング（さくら社） ・聞きとりワークシート（NPOフトゥーロ）
	・身に付いている語彙が少ないため、理解していない	〈指導内容〉 ・生活語彙を増やす【コ(3)】 〈手立て〉 ・ごっこ遊び ・模倣 ・かるた ・連想ゲーム ・言葉遊び ・言葉集め	
歩いているときも座っているときも姿勢が悪く、体の使い方が不器用である	・筋力が弱い ・ボディイメージが弱い	〈指導内容〉 ・体幹トレーニングや体全体を動かす体操，筋力アップに向けた運動をする【身(3)(5)】 〈手立て〉 ・1分間チャレンジの時間を設け，背もたれと背中の方にタオルを入れて，タオルが落ちないように姿勢を保持する練習をする ・テニスボールを半分に切った物の上に立ち，体重を前にかけたり後ろにかけたりして自分の体重がどこにのっているのか自覚する練習をする	・体・手先の動き指導アラカルト（中央法規）
	・体の使い方が不器用 ・筋力が足りない ・ボディイメージが弱い	〈指導内容〉 ・教師の手本をよく見て模倣する練習をする【身(3)(5)】 〈手立て〉 ・腕を伸ばす，足を上げる，片足立ちするなど簡単な動きを取り込んだ体操をする教師が手を添えて伸ばしたり，上げたりすることで，正しい位置を身体に記憶できるようにする	

「自立活動実践事例集」

1 研究助言者

国立大学法人筑波大学 教授 安藤 隆男

2 研究協力員

小美玉市立堅倉小学校	教諭	中山 恵
鹿嶋市立三笠小学校	教諭	齋藤 真由美
筑西市立養蚕小学校	教諭	江連 紀子
常総市立石下小学校	教諭	根本 里美
水戸市立内原中学校	教諭	小泉 俊子
大洗町立第一中学校	教諭	兼巻 照美
県立北茨城特別支援学校	教諭	石川 繭子
県立境特別支援学校	教諭	山口 瞳

3 県教育研修センター

所	長	安藤 昌俊
特別支援教育課長		藤森 幸子
		大川 行彦 [平成29年度]
特別支援教育課指導主事		平田 勝
		本城 知子
		熊澤 つむぎ
		平川 聡
		大木 勉 [平成29年度]
		安藤 尚徳 [平成29年度]

	自立活動実践事例集
	平成30年12月
編集	茨城県教育研修センター特別支援教育課
	〒309-1722
	茨城県笠間市平町1410
電話	(0296) 78-4437 (特別支援教育課直通)
FAX	(0296) 78-2122

